

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第211期）

米子市 市民生活部クリーン推進課 中村 加奈子

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

令和8年の夏、自治大学校第2部課程第211期生として2ヶ月半の研修に参加しました。全国から集まった自治体職員と、年齢も業務内容も関係なく、寝食をともにしながら勉強した立川での日々は、まさに第二の青春でした。大変なこともあったはずなのに、思い出されることは楽しいことばかり。自治大への入校を迷っている方や、入校が決まって不安になっている方のために、私の自治大生活をお伝えしたいと思います。

2 入校までのこと

令和8年3月ごろ、研修受講の打診を受けました。民間での勤務経験が長く、入庁してまだ5年目の、オールドルーキーである私。「声がかかれば、ひとまず何でもやってみる。」のがスタンスです。日々の業務に追われる中で、法制や財政の知識が十分ではないことに危機感を抱いていたこともあり、業務を離れてじっくり勉強できる今回の機会は、またとないチャンスでした。家族の後押し（小学校1年生の息子曰く「おかあさん、とうきょういっていいよ。さみしいけど、おとうさんおるけん、だいじょうぶ。」）もあり自治大への入校を決意し、職員課での面接を経て、入校へと進みました。長期の研修にも関わらず、快く送り出してくれた職場には、感謝しかありません。

3 「地方自治」を学ぶ

自治大での学びは、入校前からすでに始

まっています。事前課題の一つ目は、約50時間のeラーニングです。地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度、憲法、民法、行政法と、自治体職員として必要となる基礎的な知識を幅広く学びます。私の場合、ゴールデンウィークは朝から晩までeラーニング漬けで、研修に向けて脳のウォーミングアップといった感じでした。二つ目は、事例演習（ケーススタディを通じて行政課題の解決能力を養う）の準備です。所属自治体の保育ICTや地域交通について調べ、検討ペーパーにまとめます。私の場合、業務で関わったことのない分野だったため、よい学びとなりました。

入校後の講義では、地方自治制度、地方公務員制度、財政、行政経営など、幅広い分野について学びます。行政経験の浅い自分にとっては、どの講義も新鮮で、学びの連続でした。

日々の業務では、どうしても「前からこうやっているから」という考え方に引っ張られがちです。しかし、行政職員に求められているのは、ただ前例を守ることはありません。「なぜこのルールがあるのか」、「その根拠は何なのか」、「住民にとって適切なのか」そういったことを一つ一つ考えながら業務を行うことの大切さを、改めて考える機会になりました。

そして、自治大における研修の中心となったのが、首長への提言を想定した政策づくりに取り組む「政策立案演習」です。私たちの班は「高齢者の社会的孤立予防」をテーマに約1ヶ月、6名のチームで取り組みました。報告書提出前夜、夜11時を過ぎるまで赤入れした報告書をグループLINEでやり取りしたことは、良い思い出です。

政策立案を通じて学んだのは、政策とは「いいアイデアを考えること」だけではないということです。「本当に解決すべき課題は何なのか」を考え続け、課題の本質を見極め、仲間と議論しながら形にしていく。その過程の大切さを実感しました。

4 日本中にできた仲間

自治大に入校するまで、全国各地の地名は、ニュースや地図の中にある「どこかの遠い場所」でした。しかし、研修を終えた今は、少し違って見えます。日本各地に、顔が浮かぶ仲間がいるからです。そのことを強く感じた出来事がありました。

7月28日の5限の授業中、数人の携帯電話から「緊急速報メール」の通知音が一斉に鳴り響きました。熊本で地震が発生したのです。翌日には、災害対応のため、熊本から派遣されていた仲間が急きょ地元へ帰ることになりました。

前日まで教室で席を並べて勉強し、寮でも一緒に過ごしていた仲間が、自分の街に帰り、住民のために働く。その姿を目の当たりにして、「自治体職員」という仕事の重みを改めて感じました。

同時に、全国から自治体職員が集まる自治大だからこそ生まれたつながりの大きさも実感しました。研修を終えれば、それぞれの地域へ帰っていきます。それでも、今では日本のあちこちに、顔を思い浮かべられる仲間がいます。

これから先、仕事で迷ったり、大変なことに直面したりすることもあると思います。そんなとき、同じように自治体職員として頑張っている仲間がいると思えば、自分も頑張れるような気がします。

振り返れば、自治大で得たものは、知識や経験だけではありませんでした。自治体職

員として仕事に向き合う視点、そして全国に広がる仲間とのつながり。これらを財産として、これからも学び続け、少しでも住民の役に立てる職員になれるよう、日々の仕事に向き合っていきたいと思います。

5 おわりに

業務をしながらでも学ぶことはできます。それでも、日々の業務を離れ、全国から集まった自治体職員と肩を並べて学ぶからこそ得られるものが、自治大にはありました。

もし、自治大で学ぶ機会が巡ってきたら、ぜひ一歩踏み出してみてください。そこで得られる学びや出会いは、きっと私たちの「公務員人生」を支えてくれるものになるでしょう。



立川で食べたおいしいもの